

～旧約聖書を読んで感じること～ (54) サウルの息子 ヨナタン



ヨナタンのダビデへの贈り物 Frederick Leighton

ダビデとヨナタンと言えば、固い信頼と愛で結ばれた友人であり、彼らほどの篤い友情は聖書にはありません。ヨナタンが父サウル、弟達と共にペリシテとの激戦で死んだことを知ったダビデは悲しみ、「弓の歌」を詠みました。

あなたを思ってわたしは悲しむ／兄弟ヨナタンよ、まことの喜び／女の愛にまさる驚くべきあなたの愛を。ああ、勇士らは倒れた。戦いの器は失われた。(サム下 1:26-27)

ダビデがペリシテ人の巨人ゴリアテを倒し、サウル王に召し抱えられた日、戦闘の様子を王に話したダビデの言葉、

主は救いを賜るのに剣や槍を必要とはされないことを、ここに集まったすべての者は知るだろう。この戦いは主のものだ。主はお前たちを我々の手に渡される。(サム上 17:47)

を聞き、ヨナタンはダビデを愛するようになったのです。

ヨナタンはダビデの信仰の確信に魂を揺り動かされ、王子でありながら、ダビデを自分自身のように愛し、親友の契約を結び、着ていた上着、装束、剣、弓、帯に至るまでダビデに与えました。

ヨナタンはサウル王の長男でした。父と共にペリシテとの戦いを各地で展開していた時、ヨナタンは千人隊長として戦い、ペリシテの守備隊を打ち破り、その勇敢さは民に称えられていました。そんな中、ヨナタンは従卒一人を従え、陣地を離れ、「主が我々二人のために計らって下さるにちがいない。主が勝利を得られるために、兵の数の多少は問題ではない」(サム上 14:6) と信じて戦い、ペリシテを撃ちました。ヨナタンの奇襲、また、神への信頼はペリシテに動揺、恐怖を引き起こし、彼らは逃げ始めました。サウルは、ここぞとばかり追撃しました。兵士たちは飢えていましたが、サウルは「敵を撃つ前に、食べ物をお腹にする者は呪われよ」と過酷な命令を出しました。兵士たちは忠実に従いましたが、サウルの命令を知らないヨナタンは森の中で蜜を吸い、元気を取り戻していたのです。それを知ったサウルは「ヨナタンを死刑に」と言うのです。兵士たちの必死の取り成しでヨナタンは死を免れました。このようなエピソードから、ヨナタンは勇敢で信仰深く、自然体で振る舞い、従卒から「あなたと一心同体です」と信頼を寄せられ、部下から敬愛される思いやりのある人物と言えるでしょう。同時に単独行動をしてしまい、全体の指導者としての資質が薄く、父サウルにとっては物足りない人物でもあったでしょう。

父サウルはダビデの殊勲に報いるため娘を与えると約束するものの、ダビデに対する嫉妬心が拭えませんでした。とうとう息子のヨナタンと家臣の全員に、ダビデを殺すようにと命じました。ヨナタンはこのことをダビデに伝えて、逃がそうとします。父サウルにも「なぜ、罪無き者の血を流し、理由もなくダビデを殺して、罪を犯そうとなさるのですか」と怒って抗議します。サウルは揺れますが、サウル王家を守る思いは変わりませんでした。とうとう、ダビデは逃亡せざるを得ません。ヨナタンは弓を用いて、ダビデに密かに情報を伝え、二人は泣きながら分かれます。

ヨナタンは言った。「安らかに行ってくれ。わたしとあなたの間にも、わたしの子孫とあなたの子孫の間にも、主がとこしえにおられる、と主の御名によって誓い合ったのだから。」(サム上 20:42)

その後ダビデがジフの荒野に隠れていた時、密かに訪ね、「神に頼るように」とダビデを励ましたのが最後の別れでした。ヨナタンは父と共にペリシテ人に討たれてギルボア山頂で倒れました。